

続・緩和ケアについて

緩和ケア長 徳岡泰紀

緩和ケアがうまく進んでいるかの指標とは何だと思えますか。

糖尿病の診療がうまくいっているかどうかを判断していく指標は、血糖値になります。また、がんの診療では、抗癌剤の効果が出ているかを判断するために、腫瘍マーカーといった指標があります。

しかし緩和ケアでは、これらのような誰が見てもわかる客観的な指標がなく、患者さん自身から発される「苦痛が緩和されている」といった言葉や表情が指標となります。

私たち緩和ケアのスタッフは、患者さんが話される「苦痛」といった主観的なものに対して、それを評価し、苦痛を緩和していくことを常に考えています。

例えば、血液検査が正常でも、患者さんに苦痛が生じていれば緩和ケアを行う必要があります。このように、検査データといった客観的な指標よりも、患者さんが訴える主観的な苦痛に焦点をあてるのが緩和ケアの特徴の一つです。

がん患者さんの訴える苦痛はさまざまです。がんの進行によって出てくる痛みなどの身体的なものや、不安やうつ症状といった精神的なもの、経済的問題などの社会的なもの、死んでしまったらどうなるのだろうかというスピリチュアルなもの、などです。

緩和ケアでは、これらのさまざまな苦痛を評価する必要があります。そのためには医師、看護師、心理士、ボランティアなどの多種が力を合わせていくことが大切です。患者さんが訴えるさまざまな苦痛を全人的に評価し、チームの力で支えていくというのが緩和ケアの二つ目の特徴です。

痛みが緩和されて和らいだ患者さんの表情、それを見て安堵されるご家族の表情など、行ったケアが患者さんやご家族に届き喜ばれることが私たち緩和ケアスタッフの生きがいです。

これからも、質の高い治療と緩和ケアが提供できるよう、努力します。

米大統領アジア歴訪

4月末に行われたオバマ米大統領のアジア歴訪は日本にとって大変有意義だったと思う。アジア太平洋地域での価値観を同じくする国々との同盟強化をはかり、何においても拡張主義政策をとる中国への牽制、日本との同盟強化による対中抑止力強化という意味においても有益であった。

オバマ大統領が「尖閣諸島は日本の施政権下であり、日米安全保障条約第5条の適用範囲にある」と明言したことは非常に重要な意味を持つ。米國務長官や国防長官も同様の発言をされてきたが、大統領の発言となると重みが違うように思う。共同声明で「米国は最新鋭の軍事アセットを日本に配備してきており、日米安保条約の下でのコミットメントを果たすために必要な全ての能力を提供している」と確認されたことは中国への抑止力となる。また韓国からマレーシアに向かった米大統領専用機が、中国が一方的に定めた防空識別圏を無視して飛んでいったのは痛快に感じた。

しかし、これで尖閣諸島が中国からの驚異がなくなつたと思うのは時期尚早だろう。今後、米国防予算が大幅削減される中、どこまで本気で守られるのか疑問である。



田原本町長
寺田 典弘

それよりも日本が尖閣諸島を始め離島防衛のため、法改正に取り組むべきである。今現在、もし中国兵が漁民に偽装して上陸しても武力攻撃とは見なされにくいいため自衛隊は出動できない。そんな現行自衛隊法を一刻も早く改正する必要がある。

私は中国と戦争しろといっているのではない。有事には備えはしておくべきだと思う。もちろん外交で決着できればそれに越したことはない。そもそも外交には独り勝ちはないし、もちろん安易な妥協はするべきでない。しかしニクソン元米大統領は「政治家に向かつて信念を貫けと求め、妥協はするな」と言う評論家は、玉碎を求めると等しい。指導者がする妥協の多くは明日闘うための妥協だということを経験家は知らない。妥協は、何が最も大切かの判断とワンセットになっている。」と言っている。どう決着させられるか、安倍総理の手腕の見せ所である。